

ご挨拶

サッカーから共生社会の実現を

2016年4月1日に本連盟が設立され、2年が経った今、確かな進歩を実感しています。これまで異なるユニフォームを着用していた7つの障がい者サッカー団体の日本代表が、2017年6月に同じブルーのユニフォームに統一。サッカー日本代表の「サムライブルー」とはまだ異なりますが、障がい者サッカーが一丸となり、力強く前進しています。その流れは、強化面にとどまりません。地域では健常者と様々な障がい者がまぜこぜで楽しめる「インクルーシブフットボールフェスタ」、「まぜこぜスマイルサッカー」の開催など、サッカーを楽しむ機会を提供し、そのうねりは全国へと広がりを見せつつあります。



会長 北澤 豪

本連盟が設立するよりも前、私は2002INAS-FID世界サッカー選手権大会(知的障がい者サッカーの世界大会)で日本代表チームのテクニカルアドバイザーを務めたことを機に、障がい者サッカーと関わるようになりました。活動していく中で、残念ながら、日本ではまだまだ障がい者スポーツへの認知度が低く、また理解も進んでいないことを感じました。

日本の障がい者サッカーは、今まさに発展途上です。このような活動の積み重ねが、私たちの目指す共生社会の実現へ繋がるものと考えています。本連盟は7団体とともに、日本サッカー協会やサッカー関連団体と力を合わせて、さらなる普及・発展に努めてまいります。今後ともますますのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2018年4月



サッカーなら、 障がい者なら、 どなたでも 超えられる。

理念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する

ビジョン

- 1 障がい者サッカーの普及に努め、社会に根付いたものとなることで、誰もが、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を創りあげる
- 2 障がい者サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える
- 3 健全な組織の構築に努め、社会的責任を果たしていくことで、障がい者サッカーの価値を向上する

役割

- 1 JFA、47都道府県サッカー協会、Jクラブをはじめとしたサッカーファミリーとの連絡・連携窓口
- 2 7つの障がい者サッカー団体の組織基盤強化、競技力向上・普及活動の支援
- 3 障がい者サッカー・スポーツの普及・発展に向けた施策の企画・立案・実施

概要

- 名称：
一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟
(Japan Inclusive Football Federation)
- 設立：2016年4月1日
- 会長：北澤 豪
- 事務所所在地：
〒113-8311
東京都文京区サッカー通り
(本郷 3-10-15) JFA ハウス内



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

障がい者サッカーに関する相談窓口：03-3818-2031(平日13:00～17:00)

URL：<http://www.jiff.football>

f：<https://www.facebook.com/jiff.football/>



2018年5月作成

サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

2014年5月、日本サッカー協会(JFA)による「JFAグラスルーツ宣言」を機に、日本で障がい者サッカーと健常者のサッカーの組織的な連携がはじまりました。その中で、これまで個々で普及・発展に努めてきた7つの障がい者サッカー団体を統括する団体として、2016年4月1日に日本障がい者サッカー連盟(JIFF)が設立されました。本連盟は、JFAおよび7団体と協働して障がい者サッカーの普及・発展に取り組み、共生社会の創造を目指します。

公益財団法人 日本サッカー協会



「JFAグラスルーツ宣言」とは、「誰もが・いつでも・どこでも」サッカーを身近に心から楽しめる環境を提供し、その質の向上に努めることを宣言するものです。JFAは、サッカーに関わるすべての人々を支え、サッカー、そしてスポーツが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目指します。



① グラスルーツ推進・賛同パートナー制度

- 「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」の3つのテーマに取り組む団体を賛同パートナーに認定
- 認定団体の活動を紹介

② 47都道府県サッカー協会への障がい者サッカー普及

- 各協会へ障がい者サッカー担当者配置
- 9つの地域での会議開催

③ 指導者養成事業

- 有資格指導者向けに障がい者サッカーコースを設置

JFAに加盟

連携



日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。日本サッカー協会(JFA)の加盟団体で、JFAと協働し、ビジョンの実現と7つの障がい者サッカー団体の強化・普及を促進していきます。

① 7つの障がい者サッカー団体の活動支援

7つの障がい者サッカー団体の組織基盤強化、競技力向上、普及活動を支援します。

- ⊕ 障がい者サッカー日本代表の統一ユニフォーム制定
- ⊕ JIFF補助金制度による7つの競技団体の強化・普及活動の支援
- ⊕ HPやSNS等による7つの競技団体の活動の発信
- ⊕ 障がい者サッカー全体の窓口業務



② 共生社会の実現に向けた事業

障がい者サッカーを社会に広く普及させ、障がい者と健常者との壁を取り除きます。

- ⊕ インクルーシブフットボールの実施
- ⊕ 指導者登録制度(JIFFインクルーシブフットボールコーチ)の整備・推進
- ⊕ 企業・教育機関向けの教育事業の推進
- ⊕ ボランティア組織の整備
- ⊕ 障がい者や関連イベントへの参加



サポート

意見集約

7つの障がい者サッカー団体



特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会

<http://j-afa.jp/>

アンプティサッカーは足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外し、ロフトストランドクラッチと呼ばれる医療用補助器具で体を支えながらプレーします。



一般社団法人 日本CPサッカー協会

<http://jcpfa.jp/>

CPサッカーは比較的軽度の脳性麻痺により運動障害のある人が行う7人制サッカーです。オフサイドがない、片手で下から投げるスローインが可能なこと以外は、健常者のサッカーとほぼ同じルールで行われます。



特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会

<http://jsfa-official.jp/>

ソーシャルフットボールは精神障がいのある人が行うフットサルです。基本ルールは健常者のフットサルと同じで、女子選手を含む場合に限り最大6人でプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。



特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

<http://jffid.com/>

知的障がい者サッカーは知的障がいのある人が行う11人制のサッカーです。基本ルールは健常者のサッカーと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。フットサルもあります。



一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会

<http://www.web-jpfa.jp>

電動車椅子サッカーは国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な障がいのある人が行う4人制サッカーです。コントローラーを手やアゴなどを使って巧みに操り、電動車椅子でプレーします。



特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

<http://www.b-soccer.jp/>

2004年からパラリンピック正式種目のブラインドサッカーは、アイマスクをつけてボールの音と声を頼りにプレーする5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用します。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。



一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

<http://jdfa.jp/>

デフ(ろう者)サッカーは聴覚障がいのある人が行う11人制サッカーです。競技中は補聴器を外し、審判も笛だけではなくフラッグを使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。フットサルもあります。

